

スコットランド・エジンバラ



"Athens of the North"

はじめに

2003年 6月スコットランド・エジンバラでの「病原性大腸菌」の国際学会に出席した。演題募集要項には「エジンバラ城」の写真が掲載になりそれに誘われスコットランド行きを決めた。この城は7世紀に造られたとのことである。

人口は45万で城は強固な岩盤の上に造られている。岩が目立ちそのあたりは盛岡に似ていると思った。

エジンバラ城を中心にして囲むように街ができています。旧市街と新市街の美しい街並みはユネスコの世界遺産に登録されている。

米国モンタナ州ハミルトン滞在時(1978)のお隣さん「トムさんとメリーさん」はスコットランド出身なので、夫妻の母国をみたいとの思いもあった。

フェノール(石炭酸)による消毒法を開発したリスターはスコットランド生まれで、消毒薬開発の祖である。またクローン技術で「ドリー羊」を誕生させたのはエジンバラ郊外にある「国立ロスリン研究所」で、1997年2月のことである。その流れが京大の山中伸弥教授の「iPS細胞の開発」に繋がっている。

過日、「旅サラダ」(朝日TV、2012, 3, 17)でエジンバラが放映され懐かしい思いで放送を見た。

「クローン羊・ドーリー」はスコットランドで誕生した (再生医療へ進歩促進:朝日新聞 2012、1、5)

iPS細胞

これまで・いま・これから

細胞初期化の歴史

1966年
ジョン・ガードン博士(英国)がアフリカツメガエルで成功

1996年
イアン・ウィルムット博士(英国)が羊(クローン羊・ドーリー)で成功

2006-2007年
山中伸弥教授がマウス、ヒトから「iPS細胞」を開発し、初期化の方法を確立

神経細胞、血球、心筋など体のあらゆる細胞になることができる

主な研究機関

★拠点研究機関 他は個別事業

- ★京都大
iPS細胞の総合研究
パーキンソン病の治療
- 大阪大
角膜再生治療法の開発
- 鳥取大
治療用細胞シートの開発
- 九州大
細胞量産技術の開発
- 先端医療振興財団
研究用幹細胞バンクの整備
- 産業技術総合研究所
細胞移植治療法の開発
- 名古屋大
血管再生治療法の開発
- ★慶応大
運動神経の再生など
心不全治療のための心筋細胞移植
- ★東京大
遺伝子・細胞治療法の開発
倫理的な課題の解決に向けた研究
国立精神・神経医療研究センター
筋ジストロフィーの治療
- ★理化学研究所
分化誘導・移植の技術開発
加齢黄斑変性の治療

細胞が押し出された状態

イアン・ウィルムット博士

「ドリー羊」を誕生させた「イアン・ウィルムット」の研究グループ (「クローン誕生」岩崎説雄著より, KKベストセラーズ)



岩崎氏は弘前大農学部卒、現東京農大教授。氏はエジンバラ郊外の町・ロスリンにある「国立ロスリン研究所」で研究。「クローン羊 ドリー」の誕生は同研究所のイアン・ウィルムット博士(矢印)の研究グループにより成功。「iPS細胞開発」の走りである。

ハミルトン時代のお隣さん「トム&メリーさん夫妻」



トムさん達は自分達はスコットランド出身だとよく言っていました(1978, トムさんの庭で)。家内によれば、トムさんは北欧出身でメリーさんがスコットランドだと。そうかも知れない。

頑強な岩盤の上で街をみおろすエディンバラ城



手前右側の坂道(矢印)は城に続く道で、巨大な岩の上に建った城であることが分かる。手前はプリンセス・ストリート公園。

プリンセス・ストリート庭園から城へ続く坂道



登ってきた坂を途中で振り返ると、ヨーロッパの風景だと思う。

エジンバラ城からの遠景とそこにある土産屋で買った野球帽



お城の一部とお土産屋で買った帽子。お土産屋ではネクタイを二本買い一本は友達に。私はそのネクタイを一度も使用したことがありませんが帽子は重宝しています。

城より見えるいまの街並み(朝日TV「旅サラダ」より)



旧市街の重厚な建物の風景です



エジンバラ城を中心にして周囲は空堀のようになっており、そこが公園や遊歩道になっている。

エジンバラ城の裏手側



強固な岩盤に建物が建っているのが分かる。



ヨーロッパはおそらく「世紀」という単位で街は変わらないと思う。数十年後にその場所を誰かが訪れてもその街はそのまま残っている。ボンを訪れた時に、恩師が昔見せてくれたスライドの風景はそのまま残っていて、ここに立って、ここから写真を撮ったことがすぐに分かった。

どこからでも見えるスコット記念塔です



文豪ウォルター・スコットを記念して建てたゴシック式の塔

角度を変えて見たエジンバラ城と初夏の空



散歩の途中にこの近くにある「ウエバリー駅」に寄りました。

ヨーロッパのもう一つの魅力「窓とハンギング・フラワー」



宿泊したホテルの近くで。

「窓」



「お墓」も訪ねる魅力の一つです



パリ・モンマルトの丘近くの墓地には文学専攻生や愛好者のために「墓石案内板」がある。墓地でスタンダール、ドガなどのお墓を見てきた。後日、新聞記者の友人にその話をしたら、彼も夏休みを利用し同じ墓地回りをしてきたとのこと。「単なる旅行と違って印象深かった」と。

あまり意味のない写真ですが



背景に「Edinburgh Tour」の看板が見える。お金があればツアーをしたかった。

ヨーロッパの文化は「石」であると思う



ギザギザの屋根に特徴があります。ベルギーでもフレイッシュの建物はこのような屋根形です。

「オランダ風の屋根」だと思って写真を撮りました



窓にはハンギングフラワーが見えます。

ホテル近くのスーパーマーケットです



市民の生活の場を見るのが好きです。広告紙とかプラスチック・バックを大切にしています。この店ではチーズとビールを買ったような気がします。

夕方の散歩で迷い込んだアパートの庭で…



夕方ホテル近くを散歩して迷い込んだのがこのアパートの庭でした。

自動車のドアにこんな箴言が(矢印)

「Get in. Sit back. See the future.」



スコットランドはアダムスミス、デヴィッドヒュームを生んだ国、さすが含蓄のある言葉です。

学会場の前に駐車している自動車のドアに



スコットランドは髄膜炎 (meningitis) が多いのかな (?) と思いながら写真を撮りました。

電話ボックスで見つけた日本語です



昨年、韓国のインチョン空港で文房具店に入り、日本語での説明文を見つけたのを思い出しました。それは「寺務用品」(事務用品)という言葉でした。

学会場での「ポスタ - 」セッション



残念ながら、学会でのスライドはあまりありませんでした。どうしたんでしょうかネ？

学会での歓迎会はバグパイプの演奏とダンスでした



新市街側の街並みです



左側のガラス張りの白い建物が本屋さんで、記念に本を買おうとして入りました。観光用のダブルデッカーのバス2台が後方に見え、城は右手です。

城の下の遊歩道から新市街の方向を見上げて



新市街の方向に記念塔が見えます。

城を眺める人達のために用意されたベンチ



このベンチに座ってお年寄りたちは、夕陽に染まった「赤い城」をみながら自分達の時間を過ごしていました。

「夜のエジンバラ城と月」



夜のお城を見るビジターで賑わっていました



「月夜のエンジンバラ城」の思い出をもつての帰国です



短い「夏の夜の夢」でした。

終わりに

スコットランドのある村に祖父の代からやっている葬儀屋がありました。その葬儀屋が宣伝のために広告をだしました。

「当店はこのたび、開業百周年を記念して最高の葬儀を、来月から一カ月間半額で大サービスします」。

それを見たけちな村人の一人が、「チャンスだ」とばかり急いで自殺をしました。